



迅速な技術情報の公表とソサイエティ制の役割

企画理事 板倉文忠

我々が学会に加入する目的の一つは、自分の専門に関連した確かな技術情報を迅速に入手したいからであろう。しかし情報の確かさと迅速さは、反比例の関係にあるらしく、同時に両方を満足させるには特別な工夫が必要である。

本学会の場合、迅速さの点では、研究会・信学技報が筆頭である。毎月30余りの研究会が各所で開かれ、どの研究会も毎年5ないし10回開かれている。精力的に出席していれば各専門分野の最新のホットな技術情報が得られる。発表者の立場からは、原稿締切が発表の約1か月前であり無査読のため、比較的気楽に原稿の準備ができる。また発表時間も十分あるので詳しい内容の説明や討論が可能であるという長所もある。

次に春・夏の全国大会も、比較的アップツデートな情報源である。前述の研究会に比べれば、ページ数・発表時間・討論時間共大幅に少ないため発表者にはやや物足りなさが残るが、聴講者の立場に立つと高情報密度の発表を短時間のうちにいくつも聞くことができるという特徴がある。また種々の研究分野が同じ時・所で発表されるので広いスペクトラムの情報に吸収するには絶好である。

他方、多くの国際会議の場合、論文要旨により内容が審査され、結果として粒はそろろうが、数か月公表の遅れを伴う。本学会論文誌の場合、投稿から印刷まで、順調にいったら半年、場合によっては1年、平均すると10か月程度かかるようである。

学会は論文・技術情報の正確さと質を維持するために多大のエネルギーとコストを投入している。確かに会員読者は質の高い確かな情報を期待し、新しい概念・アイデア・技術を求めている。しかし読者の大多数は論文の形式的な完全性や完璧な正確さそのものを求めているわけではあるまい。むしろ、有意義な情報のタイムリーな提供を希望しているのではなかろうか。

コンピュータネットワークが普及した現今においては、論文受理後速やかに投稿論文の優先権を確保すると同時に、投稿論文を学会が管理するデータベースに登録してネットワーク上で公開し、会員がその論文内容にアクセスできるようにしてはどうであろうか。この段階で、編集委員・査読者以外の会員も投稿論文に関する意見を編集委員会に申し出ることができるような制度が望ましい。これによって、査読の普遍性・公平性が強化され、また一般会員の学会活動への参加意識も高くなるのが期待できる。

ソサイエティ制度の実施を機会に、各ソサイエティがその機動性を十分に生かして、論文・技術情報のより効果的な公表制度を確立していきたいものである。